

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1890100652
法人名	社会福祉法人 福井康久会
事業所名	グループホーム レインボー灯明寺
所在地	福井県福井市灯明寺町59字12番1
自己評価作成日	令和 4年 11月 25日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号
訪問調査日	令和 5年 1月 24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中、本人のペースに合わせてゆっくり過ごしていただいています。できることへの支援として生活の中でできるリハビリを中心に取り組んでいます。コロナ禍となり併設されている認知症デイサービス利用者との交流は控えさせていただいていますが、室内で楽しめるレクやおやつ作り・お天気の良い日には外出に出かけ気分転換を図っています。中学生の福祉教育(ゲストティーチャー)にも積極的に参加しています。その他介護実習生の受け入れをしており学生たちとの交流に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当施設は季節を感じることができる田園が広がる住宅地のはずれに立地している。事業所周辺には街灯も少ないため、学生の登下校時には防犯にも一役を買っている。また、施設入口には地域住民が自由に購入できる自動販売機・ベンチを設置しており、購入に来た地域住民との交流の場ともなっている。地域担い手プログラムや防災訓練、中学生の福祉教育(ゲストティーチャー)等、地域行事には積極的に参加し、地域に根差した施設である。職員全員が利用者毎の介護計画書を把握し、随時情報収集・情報共有を図っている。また利用者の本心に寄り添い、笑顔のある生活が送って頂けるようにとの気持ちを職員で共有し、日々の支援につなげている。日々の食事以外にも楽しみが持てるように入居者と共におやつ作りにも力を入れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をもとに意見を出し合い目標となるものを考えた。職員は同じ目標に向かってケアを実践している	各職員から出された意見を纏めた年度ごとの施設目標、施設理念を職員、来所者がいつでも見ることができる場所に掲示し、共通の意識を持って日々の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており地区の行事(防災訓練)に参加している。毎年、施設前で近くの小学校に向かう町内方々を見送りしている	防災訓練等の地区行事には毎年参加して地域とのつながりを持っている。また、地域担い手プログラム事業に参加し、中学校で介護事業について説明をするなど、地域に根差した取組みにも力を注いでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近くの中学校にゲストティーチャーとして介護の仕事や認知症について話し認知症の理解に努めている。今年度はコロナ禍の為、急遽中止となる		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では活動報告のほか事故報告も行っている。コロナ禍のため集まったの会議は少なかったが、家族・包括支援センター職員には書面会議で報告させていただいる	現在、事業所内の利用状況や活動報告、事故報告等を構成員に郵送して報告している。今後コロナ禍が落ち着いてきた場合には、対面での会議の再開も検討している。	各構成員が書面内容に対する意見や質問ができるような機会(方法)を作り、より一層運営推進会議を事業運営に活かしていくことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村からの案内、パンフレット、新聞の切り抜き等玄関に掲示している	市町からの郵送物を玄関に掲示して情報提供を行ったり、事業所の状況等を書面で伝える等、より良い協力関係が維持されるように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	重要事項説明書に記載し職員間でも申し合わせている。身体拘束となるような玄関の施錠等はしていない。施設長会議ではグループ全体で身体拘束についても話し合いしている	定期的に内部研修、外部研修(オンライン)を行い、介護職員は身体拘束についての知識を深め日々のケアに実践している。夜間は防犯のため玄関錠を閉めているが、日中は施錠していない。法人全体の事例を参考にしながら、適切な介護提供を各々の職員が心掛けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ざされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行っていて職員による虐待はない。入浴時にはアザ等の虐待の兆候を見逃さないようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、職員それぞれが制度を理解するようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退去するにあたり、不安な点や疑問に思うことを十分に話し合いご理解をいただいている。面会時や電話等で伺った時はその都度、説明しご理解していただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者及びご家族から意見要望があった時は早急に対応している	面会時や介護計画書の確認時に家族が来所した際には必ず声をかけ、日常の様子がわかる写真を渡し、意見や要望を聞くようにしている。得られた情報は職員間で共有し、事業運営に反映するように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	長期にわたり職員が働くことが出来るように状況に合わせた勤務内容や時間帯の見直し休憩時間の取り方等、職員の意見を聞き対応している	毎日のミーティング時や年1回の管理者との面談時に職員の意見を聞く機会を設けている。管理者は話しやすい環境作りを心掛け、介護職員が意欲的に業務に取り組めるように勤務内容等を配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に一度昇給があり、代表者と職員が個人面談の場を設けている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修を年に4回行いそのうちの一回は外部からの講師を招いて研修を行っている。外部講師についてはどのようなことを学びたいか職員の意見を参考に講師をお願いしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入しており、グループホーム同士情報交換や勉強会に参加している。コロナ禍の為Zoom研修とすることもなる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の見学時やご本人と話す機会を持つようにしている。不安に思っていること、気になること困っていることを聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が見学申し込みに来た時に、不安に思っていることや困っていること家族の思いを聞くように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学申し込みに来た際、その方の状況によっては他のサービスを勧めることがある。早急な対応が必要な方には他施設への申し込みを勧めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護するという考え方ではなく、共に寄り添いながら生活リハビリを行い、その人らしく生活できるようにお手伝いしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時には、ご家族の思いや不安、不満、希望や要望を聞くようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者の親族、友人、知人が面会に来られている。コロナ禍の為、現在はガラス越し面会。面会時にはその場で写真を撮りプレゼントしている。	コロナ禍であるため家族・友人はガラス越しでの面会やZOOMを使用して面会をしている。面会時にはその場で撮った写真をプレゼントし、馴染みの人との関係が継続できるような工夫をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者同士と一緒に出掛けられるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設や医療機関へ移られた後も、相談員と連携しながらご家族、ご本人が困ることがないように支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中でご利用者の思いや要望を聞き、なるべく叶えるように努めている	日々の会話や関わりの中から思いや要望の把握に努めている。またどの職員も入居者同士の日常会話の中に本心があるとの思いから、あえて会話に思わず静観して本意が把握できるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にご家族からこれまでの生活歴や過ごし方を聞いたり、兄弟姉妹 友人からも昔のことを聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタルチェック、排泄チェックを行い、健康管理に留意している。1日の過ごし方もカルテに記入し少しの変化にも気づけるようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは毎月行っている。見直しが必要な時は、ご家族の希望を聞き、担当職員が計画作成担当者とプランの見直しを行っている。	全職員が介護計画書の内容を把握し、日々の支援の中で得た情報を随時カルテや連絡ノートに記入することで情報共有、介護計画の見直し材料としている。定期的なモニタリングにより必要度の高い支援が適切に提供できるように努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気付いたことはその都度カルテに記入している。カルテはいつでも目を通すことができるようになっている。ミーティングで話し合ったり、申し送りノートに記入して見直しに努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問ヘアカットの希望を聞いている。ご家族やご利用者の要望に応じて受診の付き添いや買い物支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方に来ていただいて歌や踊りを見せてくれたり中学生の職場体験の受け入れしていたが、コロナ禍の為、外部との交流が出来ていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者が中心と考えており、かかりつけ医がある場合はそのまま継続して受診していただいている。施設の協力医療機関による往診も行っていて往診を希望するご利用者もいます	契約時に協力医による往診を受けることが可能であること、かかりつけ医の継続受診が可能であることを伝えている。往診時には事前に書面にて利用者の情報提供を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループ内に訪問看護ステーションと医療連携をとっており利用者の体調 身体状態の変化があれば報告し指示を仰いでいる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者にはグループホーム入所中であることを理解してもらい、早期退院できるように話をしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にも説明しているが、話し合いのうえ対応している。重度化した場合、医療機関や老健施設、介護老人福祉施設等、他の施設を紹介している。その際必要な書類を渡している	重度化・終末期の方針は契約時に説明している。状況の変化に応じて、随時家人と話し合いを持ち、意向を確認している。重度化の際には医療機関や他施設を紹介している。また家族の希望に添える支援が提供できるように、法人内の訪問看護事業所と連携を取っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアル 事故マニュアルがあり職員それぞれが読んで勉強している。マニュアルは事務所内の棚に分かりやすく保管している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員立ち合いのもと、年に2回、避難訓練を行っている。夜間を想定した訓練、デイサービスと合同の避難訓練も行っている。	消防署員の立会いの下、夜間想定を含む避難訓練を年2回実施している。実践に近い形での訓練を行うことで疑問点に気づき、専門家からのアドバイスや職員間で話し合いを行い、よりの確に行動できるように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩という気持ちで対応するように心掛けている。プライバシーに配慮した声掛けをしている	タイミングや音量等に配慮し、その場の状況に合わせた声掛けを行うようにしている。また利用者同士の会話を遮ることの無いように注意を払っている。内部研修・外部研修を通し、人格尊重やプライバシー保護への理解を深めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	手作りおやつの際は食べたいものの希望を聞いている。どら焼き たこ焼き 水まんじゅう あべかわ餅等、皆で作り提供している。外出レクも新聞記事を見ながら行きたいところに出かけるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを大事にしている。食事やおやつ等、後で食べたい方には時間を遅らせて食べていただいている。その人らしく過ごせるように職員はせかすがないようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1回、訪問ヘアカットに来てもらい好みの髪型にしてもらっている。男性利用者は髭剃りをお願いし剃り残しをきれいにしてもらい満足している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の食の好みを聞きながら食事やおやつ等に提供している。お祝い時以外にもお赤飯や栗ご飯等提供している。食後のお盆拭き・皿拭きは職員と一緒に手伝っている	お盆拭きや皿拭きは利用者の生活の一部となっている。各利用者の状況に合わせた食事形態や道具の選定を栄養士・職員の話し合いの下提供している。おやつ作りにも力を入れており、食事以外でも楽しみを持つことができる工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人に合わせた量や形状にして提供している。水分が摂れるように本人の好みの飲み物を聞き提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。磨き残しがある方には職員がケアしている。義歯のある方には夕食後に預かり、消毒を行い清潔を保っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握できるようにしている。プライバシーに配慮した声掛けその方に合わせた声掛けを行っている。	排泄チェックシートを活用し、排泄状況を把握している。誘導時には状況に応じた声掛けを行っている。食事前には体操の時間があり、定期的に体を動かすと共に、10時のおやつ時にはフルーツを提供することで、自然排便の確保に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前中のおやつはフルーツ(バナナ等)を提供している。便秘気味の方には牛乳を提供している。午前 午後と毎日体操を行い体を動かしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者の希望を聞くようにしている。入浴の順番やお湯の温度その方に合わせて入浴している	利用者の希望に合わせて、入浴順番や曜日を変更することができる。一般浴槽のほかに機械浴槽(チェアインバス)があり、身体状況が変化した場合でも、安全かつ安心して入浴ができる環境を整えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で休みたいと言われる方には自室で休んでいただいている。居室の空調管理はこちらで行い過ごしやすい温度にしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報は個人ファイルにて管理されている。薬のセットは職員2人で行い確認している。服薬時にご利用者の前で名前を確認し飲み終えるまで見守りしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	衣類たたみ・タオル干し・皿拭き・裁縫等、得意とすることをしていただいている。新聞を読むことが日課となっている方には一番に渡すようにしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、外食や家族との外出や外泊はできていない。施設の皆さんで天気の良い日には季節の花々を見に外出している。	コロナ禍以前のように外食や外泊はできていないが、花見に出かけたり、地区の防災訓練時には事業所前で地域住民と触れ合うなど少しでも気分転換ができ、日常生活に楽しみを持つことができるように工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設で管理している方がほとんどである。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される方には職員が電話をかけて会話できるようにしている。携帯電話を持っている方もいて充電されているか職員が確認するようにしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者の方といっしょに作った作品をフロアの壁に飾っている。季節ごとに壁面飾りを考え皆で作り季節を感じられるようにしている	共用空間は天井が高く、十分な採光を取り入れており、明るく開放的な空間となっている。壁には利用者が作成した季節を感じることができる作品を飾っていたり、花見等の行事の写真を飾っており、穏やかな雰囲気の中で居心地良く過ごすことができるよう工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士が同じテーブルになるよう配慮している。ソファーも好きな所で過ごしていただけるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していたものや使い慣れたもの、ご家族の写真、アルバム等持ってきていただいている。面会時には写真を撮るようにして部屋に飾るようにしている	ベッド、タンス、洗面台を備え付けている。また使い慣れた家具等を持ち込むことができる。家族写真や作品などを飾り、居心地の良い空間で日常生活を送ることができる工夫に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋がわからないという方には部屋の入口にのれんを掛けることで迷わず自室に戻ることが出来ている。		